

特42

456

訂正
觀世流儀内百拾番

賴政

108

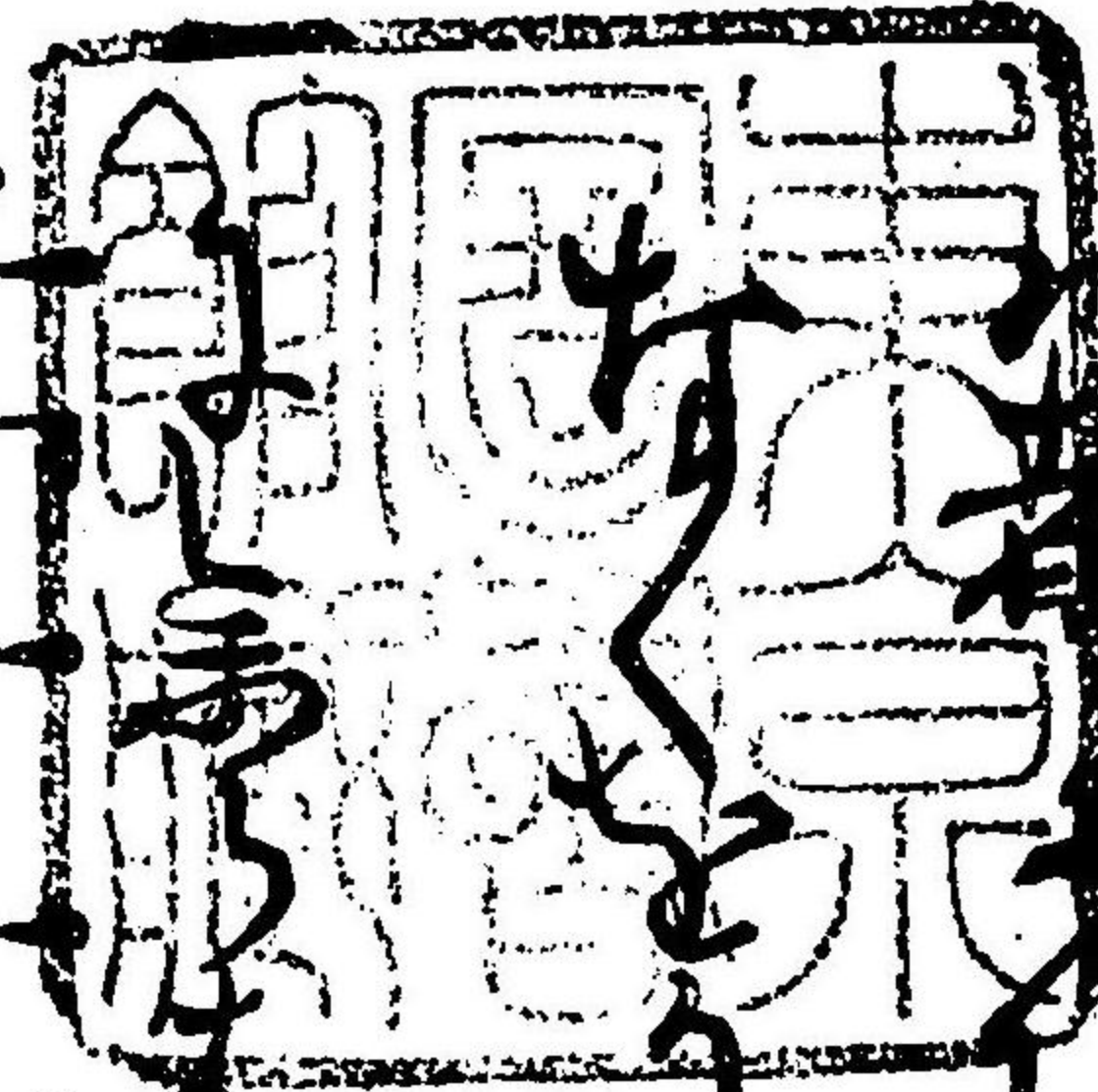
頼政



是^甲諸國一見^乙僧^丙之^丁我^戊此^己經

京都^甲乃^乙洛陽^丙乃^丁寺社^戊跡^己

竹^甲之^乙言^丙乃^丁公^戊又^己是^庚より^辛南^壬都^癸



乃^甲思^乙乃^丙作^丁乃^戊由^己雲^庚乃^辛

乃^甲社^乙乃^丙お^丁乃^戊乃^己乃^庚乃^辛乃^壬乃^癸

深^甲乃^乙乃^丙乃^丁乃^戊乃^己乃^庚乃^辛乃^壬乃^癸

頼政

一見乃者あてはげうらぬ星よたいて
 名可舊松跡のあくは教へる可^信
 よき佳入たつや一はう路の里人お
 しまから前た回跡共いふたつ痕のうら
 乃りよ舟と橋となるあつら獲るふ
 たる安んずよもききりなる名可舊
 跡行かう参入申るふ^早い^早た様よ
 乃参りて^三あ^早く^早清僧
 行中といたんき^早是の世可始て
 乃参りて^三あ^早く^早清僧
 行中といたんき^早是の世可始て
 乃参りて^三あ^早く^早清僧
 行中といたんき^早是の世可始て

一見乃者あてはげうらぬ星よたいて
 名可舊松跡のあくは教へる可^信
 よき佳入たつや一はう路の里人お
 しまから前た回跡共いふたつ痕のうら
 乃りよ舟と橋となるあつら獲るふ
 たる安んずよもききりなる名可舊
 跡行かう参入申るふ^早い^早た様よ

寺に在りて勸學院乃舊の寺なり
 と稱するに里前の人をくまら
 せりて亦よき社を先在撰法師の信
 きむ書きしむく乃程もくはう
 寺
 けりて社大なり乃事を寺事あれ
 喜撰法師の書に秋菴の都の寺に
 寺に在りて亦よき社を先在撰法師の信

寺に在りて勸學院乃舊の寺なり
 と稱するに里前の人をくまら
 せりて亦よき社を先在撰法師の信
 きむ書きしむく乃程もくはう
 寺
 けりて社大なり乃事を寺事あれ
 喜撰法師の書に秋菴の都の寺に
 寺に在りて亦よき社を先在撰法師の信

才たるるやうきて^{シテ}空^ニたれは^ハ汝^ニ之^ヲ之^ニ
 け付て物語の移く國を^ニ空^ニ
 昔^ハ汝^ノ前^ニは^ハ宮軍^ノの^ハ方^ニは^ハ源三位頼
 政^ノ合^ニ戦^ハは^ハ河原^ノ合^ニ戦^ハは^ハ扇^ノと^ハ數^ノ志^ノ志^ノ
 果^ハ汝^ノ日^ハめ^ハび^ハ世^ハの^ハ方^ニは^ハ傳^ノの^ハ古^ハ汝^ノあ^ハれ^ハと^ハて
 扇^ノの^ハあり^ハは^ハえ^ハ物^ノき^ハく^ハ今^ハは^ハ扇^ノの^ハ是^ハ也^ト
 痛^ハり^ハや^ハけ^ハも^ハ交^ハ武^ノの^ハ名^ハと^ハさ^ハる^ハ

人^ノあ^ハれ^ハた^ハ跡^ハの^ハ草^ハ露^ノの^ハ道^ノの^ハ入^ハと^ハあ^ハる^ハ
 行^ハ人^ノを^ハい^ハも^ハの^ハい^ハと^ハあ^ハる^ハと^ハあ^ハる^ハ
 行^ハく^ハも^ハ作^ハて^ハは^ハる^ハと^ハあ^ハる^ハ
 志^ハも^ハ其^ノ宮^ノ軍^ノの^ハ月^ハも^ハ目^ハと^ハき^ハあ^ハる^ハ
 當^ハり^ハて^ハい^ハふ^ハは^ハ行^ハて^ハ其^ノ宮^ノ軍^ノの^ハ月^ハ
 月^ハも^ハい^ハふ^ハは^ハあ^ハる^ハと^ハあ^ハる^ハ
 月^ハも^ハい^ハふ^ハは^ハあ^ハる^ハと^ハあ^ハる^ハ
 月^ハも^ハい^ハふ^ハは^ハあ^ハる^ハと^ハあ^ハる^ハ

人乃^中ぢまの枕は露の世よ^五なみえしと
 多りたわづらふも思ふ^上は^下ひらきよ
 夢乃^上浮世の中^下富のツ^上く^下うら^上む
 橋より^下年^上を^下入^上て^下若^上乃^下信^上も^下うら
 渡も^下遠^上方^下人^上よ^下お^上申^下我^上頼^下政^上の^下幽^上雪^下
 心^上か^下乃^上ア^下も^上あ^下入^上も^下安^上よ^下き^上り^下く

早^上の
 梅^下多^上頼^下政^上乃^下幽^上雪^下か^上乃^下よ^上顯^下き^上我^下よ

詞^上を^下う^上り^下ま^上さ^下り^上も^下古^上も^下は^上節^下吊^上も
 思^上乃^下あ^上ら^下の^上浪^下枕^上く^下げ^上も
 心^上の^下浪^上の^下扇^上の^下ま^上を^下行^上敷^下て^上夢^下は
 契^上り^下ま^上た^下う^上よ^下く
 乃^上け^下と^上吹^下く^上お^下波^上た^下く^上を^下流^上る^下白^上丸^下
 骨^上を^下く^上た^下ら^上ぶ^下を^上亭^下行^上の^下細^上代^下の
 浪^上あ^下ら^上簡^下浮^上塵^下も^上候^下勢^上者^下の^上皆

火威のようひまきくう洛れあろよ
 ぐりまきりあろよ
 地カカ
 蝸牛れ角のあろよ
 きるのあろよ
 貴人ほろよ
 甲冑と帯は経よりあろよ
 横園つる源三位れ具出あろよ
 讀入
 甲冑と帯は経よりあろよ
 横園つる源三位れ具出あろよ

まのう
 女
 教
 甲冑
 多直備よ
 ありはりひるう前のも
 平木院

乃庭の面
 思のあはら
 佛在世よ
 上言
 仁の報く法の場
 しく家子平ホ大
 しまれが力頼政
 頼政が仁果とせんう方
 かさる
 今も行こつて入る異
 源三位頼政
 執心乃海は深
 因果
 ぬら後あり
 抄治兼乃
 夏の比より
 あはら謀殺とせ
 公

もさ
 倉の宮の内
 也井乃より
 有
 明乃月の勢と
 考のあはら
 志を
 三井寺
 けつて
 けりよ
 去
 事
 家
 の
 由
 くる
 人
 較
 萬
 騎
 の
 兵
 と
 南
 の
 東
 よ
 遣
 り
 ひと
 だ
 ゃ
 音
 羽
 の
 出
 つ
 ら
 荒
 山
 科
 の
 書
 む
 本
 情
 の
 開
 む
 る
 考
 家
 子
 平
 復

世のふむらうらうら行橋打儼り
 大和路指て急ぎよ上テタル寺と宇治と
 の向きく開路釣のひまもあく賞
 六度まで歩落馬まで煩らりせ給
 きの見しわらわれば森あふまらゆ名
 ありきり平亮院あして物自は座をか
 まいつて宇治橋乃守の向りもか

志の行もまら入よたつ其其よ白旗
 をちひうしてよする歌を返るるを
 去程よ海平れきうらうの南水の岸
 よお習ふ時よきむとまひの音はよ
 類へてあひくし橋めかまきと隔
 て靴よみよる岡井の傳妙一頼は
 仰歌味方めらるを思ひのつて平家れ

大坂橋のひらり水のたうー^{トナ}ばら
 経河の大けあきの^ハ左^ハ右^ハあつ渡もく
 まるうもあつー^ト殿^ト田原^トれ又^ト太^ト席
 忠^セ課^セく^セる^セ業^セく^セら^セう^セら^セう^セ乃^セ先^セ陣^セ新
 あ^セつ^セと^セな^セの^セつ^セも^セあ^セ入^セも^セ三^セ百^セ余^セ騎
 ころ^セも^セま^セは^セ入^セけ^セ水^セ勢^セも^セた^セめ^セら
 う^セの^セま^セの^セ村^セ身^セの^セ翅^セ城^セあ^セつ^セる^セ日^セ

き^セも^セあ^セく^セも^セと^セ白^セ浪^セな^セり^セく^セあ^セつ^セら
 り^セわ^セら^セい^セる^セあ^セつ^セら^セい^セる^セあ^セつ^セら^セい^セる^セあ^セつ^セら
 づ^セら^セい^セる^セあ^セつ^セら^セい^セる^セあ^セつ^セら^セい^セる^セあ^セつ^セら
 可^セも^セあ^セつ^セら^セい^セる^セあ^セつ^セら^セい^セる^セあ^セつ^セら^セい^セる^セあ^セつ^セら
 せ^セら^セい^セる^セあ^セつ^セら^セい^セる^セあ^セつ^セら^セい^セる^セあ^セつ^セら^セい^セる^セあ^セつ^セら
 き^セら^セい^セる^セあ^セつ^セら^セい^セる^セあ^セつ^セら^セい^セる^セあ^セつ^セら^セい^セる^セあ^セつ^セら
 だ^セら^セい^セる^セあ^セつ^セら^セい^セる^セあ^セつ^セら^セい^セる^セあ^セつ^セら^セい^セる^セあ^セつ^セら

